

## 平成 26 年度北海道大学総合技術研究会 参加報告

自然科学系技術班 鎌田 浩子, 中村 純  
機械・環境建設系技術班 十河 基介, 川口 隆

主 催：国立大学法人 北海道大学  
開催期間：平成 26 年 9 月 4 日（木）～9 月 5 日（金）  
開催場所：北海道大学札幌キャンパス

### 1. はじめに

本研究会は、全国の大学、高等専門学校及び大学共同利用機関の技術職員が、日常業務で携わっている広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する研究会である。通常の学会とは異なり、日常業務から生まれた創意工夫や失敗事例なども重視し、参加者の技術交流と技術向上を図ることを目的として開催している。

平成 26 年度は北海道大学にて開催され、本学から 4 名が参加し、2 名が口頭発表をおこなってきた内容について報告する。

### 2. 報告事項

参加状況は 83 機関から口頭発表 178 件、ポスター発表 227 件、聴講者 377 名、総数 782 名であった。スケジュールは 2 日間で、初日午後からスタートし、開会式、特別講演、ポスターセッションが 2 交代制でおこなわれた。その後、キャンパスから市内他会場へ移動し、情報交換会が開かれた。2 日目の口頭発表は 12 分野で構成された 64 セッションが 15 会場で開催された。実験実習技術分野で十河が「走査型電子顕微鏡による流れの観察について」と題し、施設管理、安全衛生管理技術分野で川口が「PCB 廃棄物の適正な処理に向けた取り組み」と題し、講演をおこなった。今回の開催特色は、学内・学外施設見学等が 8 プログラム用意され大変充実していたことである。主な内容として、食肉製品加工体験実習やロボットトラクタ走行デモンストレーション、低温科学研究所、北方生物圏フィールド科学センター見学など、いずれも“北の大地”ならではの興味深い内容が企画されていた。運営面では道内の北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学が連携された実行委員会が組織され、まさに“オール北海道”体制が敷かれていた。これは総合技術研究会初の試みであり、単独では開催できない規模の小さな地方大学等が、今後、総合技術研究会を開催するにあたり、複数機関による地域ブロック単位での連携開催の方向性を示したものであった。



写真－1 北大正門前

### 3. おわりに

総合技術研究会は 1 万人いると云われている国の研究機関、国公私立高等教育機関の技術系職員の約 1 割が集まる最も大きな全国大会である。本会に参加し、同じ立場の技術職員による熱意のこもった発表に触れ議論を交わすことは大変貴重で有意義な時間である。今回は遠方で躊躇された方も、ぜひ次回以降の機会を捉え参加して頂ければと願っている。

謝辞：このたびの参加にご配慮頂きました大賀技術部長をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。